

わたしたちのまちのこと、一緒に考えませんか？

～区政会議、専門会議委員を募集します～締切:8月13日(火)必着(窓口は17:30まで)

住吉区では、多様な区民意見を把握し区政運営に生かす仕組みとして、区政会議や専門会議を開催しています。この度、公募委員の任期満了に伴い、次のとおり委員を募集します。

会議名	会議内容	募集人数	担当窓口・問合せ
区政会議	区の施策や事業について、区民の意見を把握し、反映させるとともに、実績及び成果の評価に関する意見を聴くための会議	3名	総務課 3階 33 番窓口 ☎6694-9625
防災専門会議	防災の課題について、専門的な見地や地域・住民の立場からの意見を求め、区の防災施策に反映させるための会議	1名	地域課 3階 36 番窓口 ☎6694-9734
地域福祉専門会議	福祉の課題について、専門的な見地や地域・住民の立場から意見を求め、区の福祉施策に反映させるための会議	1名	保健福祉課 2階 26 番窓口 ☎6694-9857

※応募資格や応募方法、選考方法等については、ホームページをご覧ください。



各種会議で意見をいただき、次の取り組みを進めました

改善事例 1

意見

区役所敷地内の点字ブロック上に自転車止められており、視覚に障がいのある人は歩けないので改善して欲しい。(区政会議)

取り組み

点字ブロック付近に駐輪禁止の啓発シートを貼り付けました。駐輪が激減し、歩きやすくなりました。



改善事例 2

意見

家屋倒壊に備えて、一時避難場所に救助資器材が必要である。(防災専門会議)

取り組み

各町会に救助資器材としてボールのこぎり・ジャッキを配布し、公園・集会所等に設置しました。



歴史コラム

すみよし歴史散歩

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

「北前船と大阪・住吉」

北前船は、江戸時代中期(1750年頃)～明治30年代にかけて、大阪と北海道を日本海廻りで行き来し、様々な商品を流通させていました。木造の帆船ながら約150トン積で当時としては非常に大きな船(いわゆる千石船)でした。4月頃から10月末頃までの間、瀬戸内海や日本海沿岸の各地に寄り、船主自身が各地の特産品などを売買しながら行き来する「のこぎり商い」を行って大きな利益を得ていました。関西・中国地方から、綿・木綿・砂糖・塩・衣類・紙・ろうそくなどが北海道・東北地方に運ばれ、逆に北海道・東北地方からは、ニシン・干鰯(ほしか)・数の子・昆布・米などが大阪に運び込まれました。特に昆布は大阪の食文化に大きな影響を与え、現代まで続いています。このように北前船は、単に商売だけではなく、日本の文化交流の大きな橋渡しの役目を果たしていました。

その当時の航海は、ひとたび嵐が来れば命懸けで船を操らなければならない過酷なもので、「板子(いたご)一枚下は地獄」とも



北前船(模型)

いわれ、船乗りは「間違いがあれば後はよろしく」と言って船出したといわれています。住吉大社は海上交通の守り神を祀っていますので、昔から航海の安全と商売繁盛の祈願のために、多くの石燈籠(いしとうろう)や絵馬などが奉納されています。

日本遺産に認定されている北前船のストーリーに、昨年5月、新たに北前船にゆかりのある構成文化財として「住吉大社」と、住吉大社境内に並ぶ「石灯籠」が登録されました。住吉にとって誇るべきものがまた一つ増えたといえるのではないのでしょうか。

北前船と大阪・住吉についてのまち歩きと講演会を11月17日(日)に開催します。区民のみなさんのご参加をお待ちしております。

執筆 NPO法人すみよし歴史案内人の会 吉田 進

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアーなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。



石灯籠



引き札「高岡市伏木北前船資料館所蔵」

[すみよし歴史案内](#)

[検索](#)



ご存知ですか? ほじょ犬マーク

身体障がい者補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)同伴の啓発のためのマークです。

公共施設、交通機関やレストランなどの民間施設でこのマークを見かけたり、補助犬を連れている人を見かけた場合は、ご理解・ご協力をお願いします。